

教師のコミュニケーションスキル育成支援システム

Support System to Develop Communication Skills of Teachers

森 夏実, 林 佑樹, 瀬田 和久

Natsumi MORI, Yuki HAYASHI, Kazuhisa SETA

大阪府立大学 現代システム科学域 知識情報システム学類

College of Sustainable System Sciences, Osaka Prefecture University

Email: mori@kbs.cias.osakafu-u.ac.jp

あらまし: 教師と生徒間のコミュニケーションにおいて、生徒が考えや事実の全てを語れない、語りたくない、あるいは語らせたくない状況に出会うことは珍しくなく、教師側で生徒の心情を察する配慮が求められる。本研究では、このようなスキルが十分に備わっていない、教育経験の浅い教師を支援対象とし、教育現場で生じる教師・生徒間の対話等の事例を蓄積・共有でき、事例ごとに熟練の教師がもつような生徒目線の多様な考え方に触れることのできるシステムを提案する。

キーワード: コミュニケーション, 多様な考え方の獲得, 教師と生徒の対話

1. はじめに

教師と生徒間のコミュニケーションでは、年齢的な問題や精神状態により、生徒が考えや事実の全てを語れない、あるいは語りたくない、または教師が生徒にこれ以上語らせたくない状況は珍しくない。このような状況では、生徒の心情を汲み取る配慮が教師に求められる。教師が主観的な見方しか持たずに接した場合、偏った解釈、あるいは間違っただけの解釈を生徒に押しつけてしまう可能性があるため、客観的かつ多様な視点を持ちながら生徒と対話するコミュニケーションスキルを備えることが望ましい。

本研究では、このようなスキルが十分に備わっているとは限らない教育実習生や新任教師を対象とし、教育現場で生じる教師と生徒間の対話等の事例を蓄積・共有でき、事例ごとの多様な考え方に触れる場を提供することを目的としたコミュニケーションスキル育成支援システムを提案する。

2. アプローチ

2.1 具体的な対話事例

教師・生徒間で生じる対話の事例を以下に示す。場面は、英語が苦手な中学3年生の生徒が先生と相談している状況である。

<p>【具体例】 先生: 英語が苦手なのね? 生徒: そうなんです。全然できなくて… 先生: そっか。できないってどれくらいできないの? 生徒: もう中学一年生の範囲から分からないんです 先生: なるほど。もう受験生になるわけだけど、高校はどこを志望しているの? 生徒: それなんですけど、<u>ちょっと言うのが恥ずかしくて…</u></p>

ここで、生徒の最後の発言が意図していることを考える。一つの見方として「偏差値の高い高校を目指しているが、学力が足りないため言えない」が挙げられる。これとは反対に「偏差値の低い高校を志望しているから恥ずかしい」や、「経済的に高校に行

けなくて悩んでいる」といった視点も考えられる。このように生徒の発言に内在する意図は様々な視点から考えられる。

2.2 システム要件

上述のように、教育現場で起こる多くの事例について、自分と異なる見方にできるだけ多く触れられることが思考の視野を広げるためには重要である。これを実現するためには、教育現場で起こる多くの事例について考える機会を設け、生徒に対する考え方をシミュレーションできることや、自分と異なる視点に触れることで、教師の思考の広がりへと繋げる仕組みが必要だと考えた。そこで本研究では、事例の参照・見方の投稿・他者の見方の閲覧・事例の投稿機能を備えるシステムを提案する。

これらの機能を通して多様な考え方に触れることで、生徒の心情を察する力の向上を狙いとする。また、生徒の心情を汲み取れないことから生じるストレスの軽減や、仕事に対するモチベーションの向上も期待される。

3. 構築したシステム

2章で述べた要件を満たすシステムを実装した。図1にシステムのログイン後のトップページを示す。教育現場でどのような事例が起こるのか、カテゴリ毎に列挙して表示されている。

本システムは、オープンソースのWebアプリケーションフレームワークであるRuby on Railsを用いて構築している。プログラミング言語はRuby及びJavaScriptを利用し、データベースはSQLiteを用いた。また、ログインする際のユーザ認証として、Twitterが提供するOAuthを利用している。この認証方法は、ユーザの同意のもとに外部サービスにパスワードを教えることなく、安全にユーザの権限を受け渡しできるという利点がある。

以下に各機能の詳細を示す。



図1 トップ画面

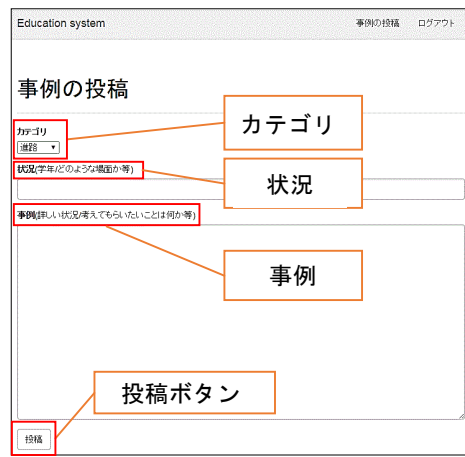


図3 事例の投稿画面

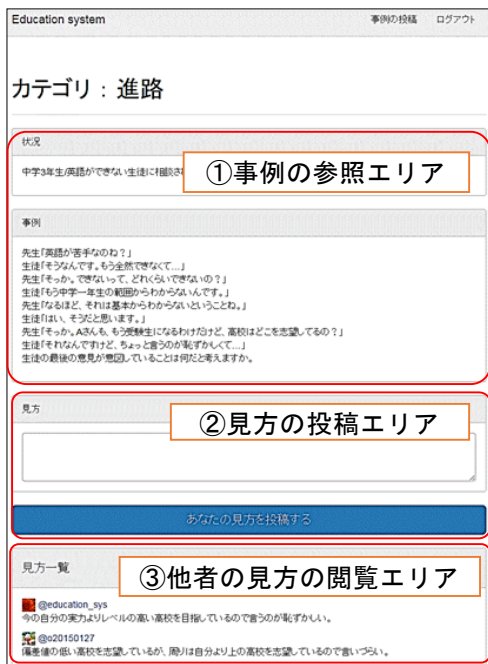


図2 事例の参照画面

3.1 事例の参照機能

教育現場で生じる事例を参照する機能である。図1の事例をクリックすることで、その事例の状況と詳細を図2①のエリアから確認できる。

本システムでは、事例に音声や映像などの非言語情報を用いず、文字のみで表示している。実際のコミュニケーション場面では、声のトーンや表情等の非言語情報も含めて、相手の心情を汲み取る必要がある。しかし、本研究の目的は、特定の状況を解決することではなく、1つの事例に対して考え得る可能性を広げることに主眼を置いている。したがって、特定の状況をリアルに表現するような情報を排除し、多角的な考えを喚起させやすい文章のみの事例表現を採用した。

3.2 見方の投稿機能

事例に対する自分の見方を投稿する機能である。図2②に見方を書き、投稿ボタンを押すと、自分の見方が図2③に表示される。1つの事例に対し、自分

ならどう考えるかを他者と共有することができる。

3.3 他者の見方の閲覧機能

自分と異なる見方に触れる機能を与える機能である。図2③にある見方一覧という見出しをクリックすることで、事例に対する他者の見方が一覧表示される。事例を参照した時には見方一覧は閉じられており、他者の見方に影響されずに自分の見方を考え、投稿させたいという意図がある。

3.4 事例の投稿機能

自分が抱えている問題や疑問を共有する機能である(図3)。カテゴリを選択し、状況(学年、場面)と事例(詳細、考えてもらいたいこと等)を入力し、投稿ボタンを押すことで新しい事例を投稿できる。

どのようなことが教育現場で起こるのかを構造的に分かりやすくするために、文献⁽¹⁾⁽²⁾を参考に、カテゴリとして「進路・いじめ・授業・行事・その他」の5つを設定した。現時点ではシステム側で設定されたものしか選択できないが、該当カテゴリがない場合、ユーザ側で新たに追加できる機能も必要であると考えている。

4. まとめと今後の課題

本研究では、教育現場の事例に対する多角的な考え方の獲得を目指したコミュニケーションスキル育成支援システムを構築した。

今後の課題として、システムの有効性を確認する必要がある。また、システムに蓄積される事例が多くなった場合に、ユーザの混乱を招かない管理方法を考えることも課題の一つである。

参考文献

- (1) 大前 暁政：“若い教師の成功術—「ちょっと先輩」からアドバイス”，学陽書房(2007)
- (2) 共同教育研究会：“大阪府・大阪市・堺市の論作文・面接”，協同出版(2007)